

③ IMG アカデミーの教育方針

「IMG アカデミー」では、前述の通り 90% 以上が大学進学する（60%は Division I に進学）ため、授業は最大 16 名という少人数制を採用し、高い卒業率をキープしている。プレッシャーなくのびのびした環境であることが結果として高いアウトプットを出しているとのことであった。

学業とスポーツ教育をつなぐものとして

「APD : Athletic and Personal Development」というスポーツと自己啓発というプログラム置き、専門家によるメンタルコンディショニングや、ライフスキル・メディアトレーニング、自己管理など、アスリートそして社会人として必要な様々なスキルを学ぶ機会を提供しているのが特徴である。



最高 16 名までの少人数制教育



APD プログラム

④ スポーツ指導方針

「IMG アカデミー」のスポーツにおける指導方針は、全米リーグ、トーナメントにも出場していて実際には良い成績を残しているが、最大の目標を優勝には置いていない。理由としては、ケガのリスクが高すぎるなどが挙げられており、それよりも卒業後や引退後の進学や就職のことを重視している。

スポーツ指導方法としては、科学的なデータに基づいた「理論」、それゆえ「量より質」の指導・練習を実施していることである。例えば、素振りには 1 日 20 回しか行わない。1 回 1 回のフォームをきちんとデータ解析し、改善点を把握することなどが勧められている。また、「ミスを奨励」する指導が特徴である。例えば、野球では見逃しより空振り三振、テニスではネットよりオーバーを褒める。なぜなら、後者はボールとバットの距離、テニスボールの飛距離の感覚がつかめ、次の改善につながる一方、見逃しとネットではそれがなく次につながらないからである。こうした方針は、最新機器によるデータ分析とコーチによる解説・激励の二人三脚的な指導により実現される。

⑤ 各種施設

全ての施設、特にスポーツ施設は充実しており、その規模は日本とは比較にならない

程である。全敷地が東京ドーム 50 個分と前述したが、テニスコートが 55 面、天然芝サッカーフィールドが 16 面、天然芝野球場が 4 面等、フロリダ州ならではの環境を生かしている。また、屋内ゴルフスウィング解析施設など最先端テクノロジーを駆使した施設が完備している。食堂や医療施設などスポーツ施設以外の施設も充実している。



野球場



屋内ゴルフスウィング解析施設



食堂



ジョンズ・ホプキンス大学による
ヘルスサービス

⑥ IMG アカデミー視察結果（まとめ）

IMG アカデミーは、その施設規模やテクノロジーを駆使した最新設備、プロテニス選手を中心としたアスリート輩出実績からプロ養成所とのイメージがあったが、実際にはプロ養成所ではなく、NCAA 同様、プロにならない大多数の学生の大学進学、就職を第一に見据えた教育・スポーツ指導方針に基づいた学校経営を行っていることがわかった。また、高校生以下の学生を預かっている学校として、NCAA の規定や各大学の特性を踏まえた学業支援、進学支援を行っている。また、科学に基づいたスポーツ指導や最大 16 人という少人数制や充実した自己啓発プログラムによる学習指導などは日本の環境・基準とは異なるものであり、大いに参考になった。

4.3.4 「大学スポーツ・アドミニストレーター育成プログラム」の評価・検証

今回開発・実施した、「大学スポーツ・アドミニストレーター育成プログラム」の評価

検証を行うため、受講後アンケートを実施（2018年3月6日～8日）し、当プログラムの理解度の把握、「大学スポーツ・アドミニストレーター」育成に必要な講義テーマの照会・把握を行った。また、同プログラム受講、フロリダ大学への視察調査、および日々の業務を踏まえた上で「大学スポーツ・アドミニストレーター」の役割、必要な知識・スキル・マインドについて意見集約を行った。

（1）講座各テーマの理解度について

「大学スポーツ・アドミニストレーター育成講座」の各講座の理解度を受講者に聞いたところ、「大学スポーツの歴史・意義と大学スポーツ・アドミニストレーターの役割」が「理解できた」（「理解できた」＋「まあ理解できた」の合計）と回答した割合が100%で最も高く、次いで「中学・高校部活動の基礎的情報」、「大学スポーツのコンプライアンス」が85.7%という結果であった。

テーマの柱別に見ると、「大学スポーツとそれを取り巻く環境」「大学スポーツの健康安全と競技力の向上」、「大学スポーツ・マネジメント」の順となったが、これは、日々の業務において携わっている領域と関連した結果と考えられる。

（2）「大学スポーツ・アドミニストレーター」育成に必要な講義

「大学スポーツ・アドミニストレーター」育成に必要な講義として、今回実施した12講義のうち「大学スポーツのコンプライアンス」、「大学スポーツと安全管理」、「大学スポーツと権利ビジネス」、の3講義が最も必要性が高いという結果となり、「大学スポーツとそれを取り巻く環境」、「大学スポーツの健康安全と競技力の向上」、「大学スポーツ・マネジメント」の3つのテーマからそれぞれ1つずつ選定された結果となった。

また、今回実施した12講義以外に必要と思われるコンテンツについては、「我が国のスポーツ界全体の組織の歴史、現状と課題」、「スポーツ先進国の大学スポーツの概況・事例」の他、「各競技連盟の実態」や「体育各部の特徴や学生アスリートのマインド・特性」などが挙げられた。また、ゼミ形式がふさわしいコンテンツとして、「マーケティングやブランディング戦略」などが挙げられた。

新たに必要と思われるプログラムに必要なコンテンツ

(講義形式)

- 1 我が国のスポーツ界全体の組織の歴史、現状と課題
- 2 アメリカ、イギリス等スポーツ先進国における（大学）スポーツの概況・事例
- 3 スポーツおよび大学スポーツの偉人ストーリー
- 4 FIFA マスター・米国 AD 経験者等の実体験紹介と大学スポーツへの提言
- 5 各競技連盟の実態
- 6 学生アスリートのキャリア形成支援
- 7 体育各部の特徴・特性と学生アスリートのマインド・特性
- 8 ファシリティマネジメント

(ゼミ形式)

- 1 早稲田スポーツのマーケティング戦略
- 2 早稲田スポーツのブランディング戦略

(3) 「大学スポーツ・アドミニストレーター育成プログラム」の構成等について
「大学スポーツ・アドミニストレーター」育成プログラムの講義時間については、今回実施した2時間（講義形式60分、ワーク形式60分）、もしくは60分～90分という意見が挙げられた。また、構成としては、座学のみではなく関連施設の見学などの希望が挙げられた。

(4) 「大学スポーツ・アドミニストレーター」の役割、必要な知識、スキル、考え方
今回のプログラム受講や、フロリダ大学への視察調査等を踏まえ、「大学スポーツ・アドミニストレーター」の役割、必要な知識、スキル、考え方について照会したところ、以下の通り集約された。

1) 大学スポーツ・アドミニストレーターの役割

- ① 大学スポーツの全関係者の利害調整・コーディネートを通じた大学スポーツ振興と利益創出
- ② 大学スポーツを通じた学生への教育的価値、大学・関係者への社会的価値の提供
- ③ 大学スポーツ文化の創出（②を通じて）/大学スポーツの価値向上
- ④ 大学の競技スポーツ政策の立案、実行、諸制度の設計、政策提言
- ⑤ 大学スポーツに関わる全てを司り、戦略的かつ一体的に管理統括

2) 大学スポーツ・アドミニストレーターに必要な知識、スキル

- ① 大学スポーツに関わる法律、マネジメント、医科学、アスリートのキャリア、コンプライアンス（危機管理）、財務、会計、広報戦略等幅広い分野の基礎知識

- ② 国内外の高等教育政策およびスポーツ事情
- ③ 大学全体の組織・財務・意思決定プロセス
- ④ スポーツ界、大学スポーツ連盟・協会に関する知識
- ⑤ 体育各部、学生アスリートの特性等に関する知識
- ⑥ コミュニケーション能力（調整、傾聴、交渉力）
- ⑦ コーディネート能力（多様なステークホルダーとの調整、連携）、人脈構築
- ⑧ スキル 企画力、計画力
- ⑨ 判断力、実行力
- ⑩ 情報発信力

3) 大学スポーツ・アドミニストレーターが持つべきマインド（姿勢・考え方）

【大学スポーツに対して】

- ① 大学スポーツは教育の一環であり、社会に役立つ人材を輩出するという姿勢
- ② 学生および競技者としての成長を両側面から考える姿勢
- ③ 現場感覚を持ちながら大学スポーツの在り方を問い続ける姿勢
- ④ 大学スポーツが学生・大学にとって短期的な経済効果にとどまらない大きな貢献をしうるものであるという考え方

【業務・取り組みに対して】

- ① 無から有をつくっていく意識
- ② 既存の枠にとらわれない柔軟な発想

上記をまとめると、大学スポーツ・アドミニストレーターの役割としては、「大学スポーツの振興と利益創出」、「大学スポーツ文化の創出」、「大学スポーツを通じた教育的・社会的価値の提供」などが挙げられ、それに必要な知識・スキルとしては、「大学スポーツに関わる幅広い各分野（法律～広報 PR まで）の基礎的知識」、「大学組織の組織・財務・意思決定プロセス」、「スポーツ界に関する知識」、「体育各部、学生アスリートの特性等に関する知識」など、「理論」と「現場・実践」双方の知識が必要との意見が出された。

また、大学スポーツ・アドミニストレーターは、学生から教員、保護者等多様なステークホルダーと関わることとなるため、コミュニケーション能力やコーディネート能力、企画・計画力等が求められるといった意見があった。さらに、大学スポーツ・アドミニストレーターに求められる姿勢や考え方として、「大学スポーツは教育の一環であり、社会に役立つ人材を輩出する」という意見が多く見られ、これは、大学スポーツの第一義

的目的が利益追求ではなく、人材育成である点が確認されたものと言える。

4.3.5 まとめ

今回実施したアンケート結果より、プログラム評価としては、参加者が大学スポーツの幅広い分野における基礎知識の習得が出来たこと、そして各講座に対する理解度も一定程度測れたことから、一定の成果があったと言える。また、学内のスポーツにおける各分野の専門家と競技スポーツセンターで課題の共有ができたことも、今後の早稲田大学スポーツ行政に非常に大きな意味を持つと考えられる。

また、受講者からは今後の大学スポーツ・アドミニストレーター育成に関するに対する積極的な意見・要望が挙げられ、これらの意見をもとに、今後育成していくべき「大学スポーツ・アドミニストレーター」の役割、必要な知識・スキル・マインドを図（次ページ）の通り整理した。

その中の「必要な知識」の取得に資する「大学スポーツ・アドミニストレーター育成講座」の改善としては、受講者の意見にもある通り、①「理論と実践の組み合わせ」、②参加者の多様性の確保（多様な関係者の参加）、③実施時期・期間の改善、が挙げられる。また、なるべく知識が身になるように、図中「ゼミ形式」となっている部分については、グループでビジネスプランづくりをするなど、手足頭を使う手法が取り込まれると有益と考えられる。さらに、「理論と実践」という意味で、学識経験者と実務経験者をバランスよく配置する（実務経験者をゲストとして招く等）ことで理解をより深めることが可能になると考えられる。

また、今後、仮にプログラムを一般化していくにあたっては、改めて「大学スポーツ・アドミニストレーター」の定義（役割）・到達点の明確化、日本の大学スポーツの実態に応じたカリキュラム構築、ワークなど実践的なプログラムの開発、が課題となる。

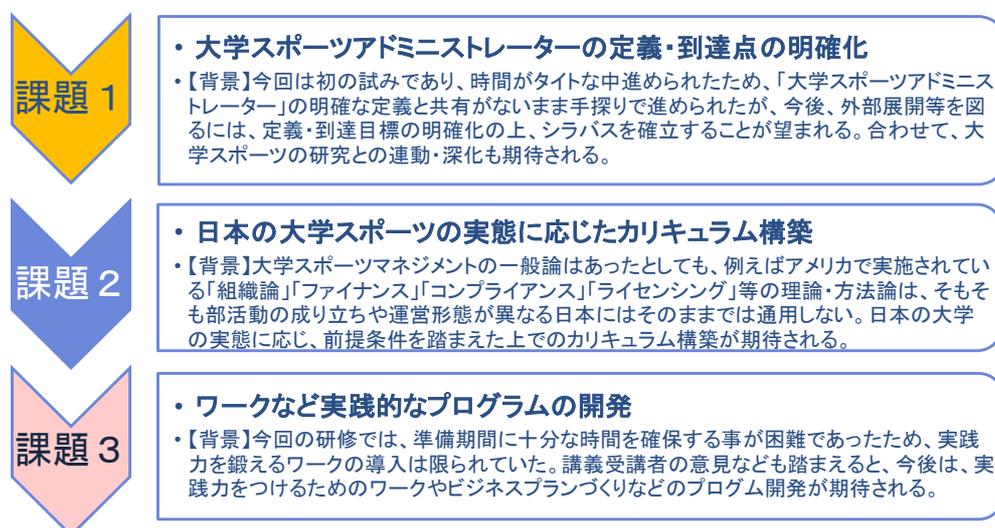


図 11 大学スポーツ・アドミニストレーター育成プログラムの一般化に向けた課題

大学スポーツ・アドミニストレーター（大学スポーツ SA）

【役割】

- 大学スポーツの教育的・社会的価値の提供と価値向上
- 大学スポーツ文化の創出
- 戦略的な大学スポーツ行政の推進と利益創出

【必要なスキル】

- コミュニケーション能力
- コーディネート能力
- 企画・計画力/判断力・実行力

【必要なマインド】

- 大学スポーツは教育の一環
- 学業・競技双方の支援
- 無から有を作る/既存の枠にとらわれない

【必要な知識】

大学スポーツと それを取り巻く環境

- 大学スポーツのコンプライアンス
- 大学スポーツの歴史・意義
- 大学スポーツ組織論

- 学生アスリートの学業・キャリア支援
- 国内外の大学スポーツ事情、連盟の実態

業界関連組織視察等

大学スポーツの健康安全

- 大学スポーツの安全管理

- スポーツ科学と競技力の向上
- 大学スポーツと健康管理
- ファシリティ・マネジメント

大学スポーツ マネジメント

- 大学スポーツと権利ビジネス
- 大学スポーツのファイナンスとアカウントティング・資金調達
- 大学スポーツと広報PR

セミ形式

- 大学スポーツマーケティング・ブランディング

図 12 大学スポーツ・アドミニストレーターの役割と必要なスキル、マインド、知識

